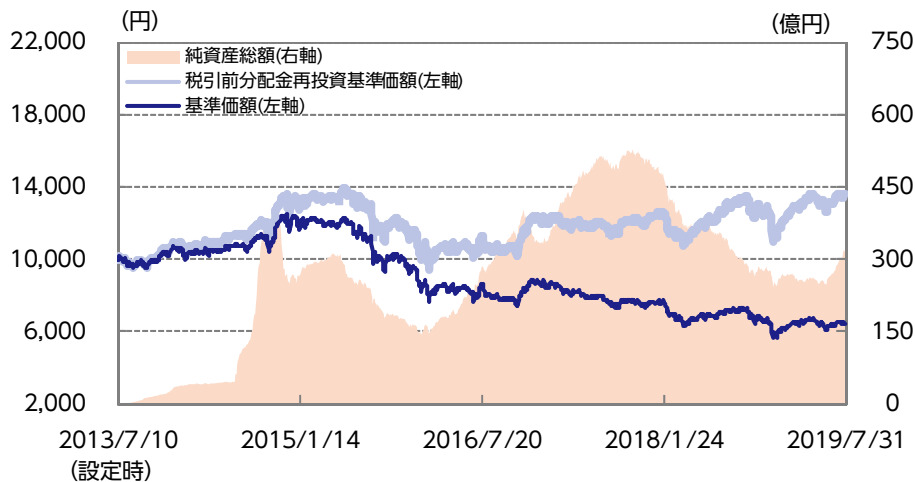




運用実績 毎月決算型

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	6,449円
前月末比	182円
純資産総額	318億円
主要投資対象ファンドのマザーファンド(※)純資産総額(参考)	734億円

※LM・アメリカ高配当株マザーファンド

分配の推移 (1万口当り、税引前) (※)

第67期	2019年01月	70円
第68期	2019年02月	70円
第69期	2019年03月	70円
第70期	2019年05月	70円
第71期	2019年05月	70円
第72期	2019年06月	70円
第73期	2019年07月	70円
直近1年間累計		990円
設定来累計額		6,220円

※当ファンドは毎月28日決算です。28日が休業日の場合、翌営業日に支払われます。そのため、同月に2回分配が行われる場合があります。

基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	2.9%	0.6%	11.2%	7.3%	24.5%	36.1%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は実質的な信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手續・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります(個人受益者の場合)。

※ファンド騰落率は分配金(税引前)を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りと異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

組入比率

LM・アメリカ高配当株 ファンド(毎月分配型) (適格機関投資家専用)	97.7%
ニッセイマネーマーケット マザーファンド	0.0%
短期金融資産等	2.3%

※対純資産総額比

基準価額の変動要因

	1ヵ月	設定来
株式要因	149円	2,472円
為替要因	50円	1,394円
その他(信託報酬等)	-17円	-1,197円
小計	182円	2,669円
分配金	-70円	-6,220円
合計	112円	-3,551円

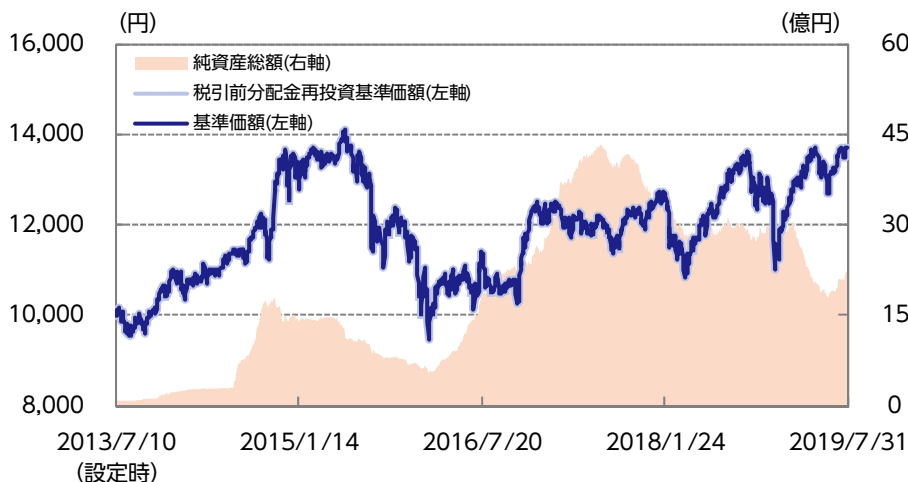
※要因分析は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。

※各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、各項目の合算は必ずしも合計とは一致しません。

※株式要因、為替要因は、レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社の資料に基づき、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

運用実績 年2回決算型

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	13,688円
前月末比	379円
純資産総額	22億円
主要投資対象ファンドのマザーファンド(※)純資産総額(参考)	734億円

※LM・アメリカ高配当株マザーファンド

分配の推移 (1万口当り、税引前)

第6期	2016年06月	0円
第7期	2016年12月	0円
第8期	2017年06月	0円
第9期	2017年12月	0円
第10期	2018年06月	0円
第11期	2018年12月	0円
第12期	2019年06月	0円
直近1年間累計		0円
設定来累計額		0円

基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	2.8%	0.5%	11.0%	7.0%	24.2%	36.9%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は実質的な信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります(個人受益者の場合)。

※ファンド騰落率は分配金(税引前)を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りと異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

組入比率

LM・アメリカ高配当株 ファンド(毎月分配型) (適格機関投資家専用)	97.6%
ニッセイマネーマーケット マザーファンド	0.0%
短期金融資産等	2.4%

※対純資産総額比

基準価額の変動要因

	1ヵ月	設定来
株式要因	314円	3,874円
為替要因	105円	1,294円
その他(信託報酬等)	-40円	-1,479円
小計	379円	3,688円
分配金	-円	0円
合計	379円	3,688円

※要因分析は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。

※各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、各項目の合算は必ずしも合計とは一致しません。

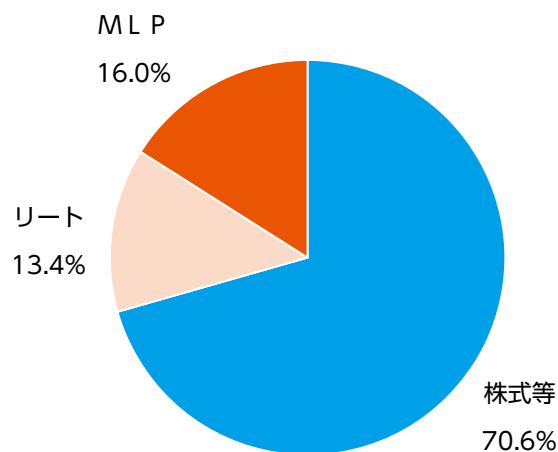
※株式要因、為替要因は、レップ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社の資料に基づき、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

投資対象ファンドの状況

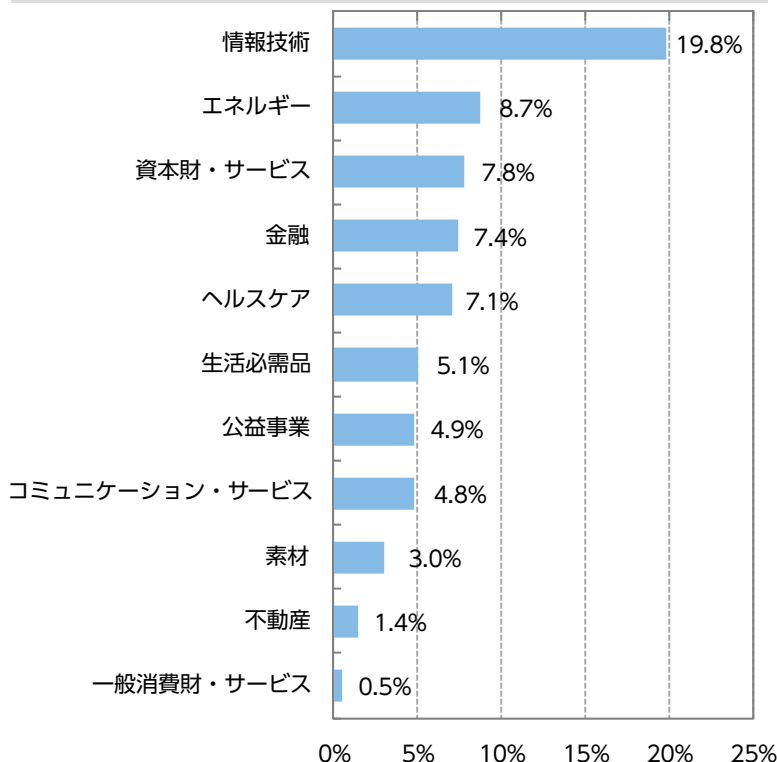
※投資対象ファンドの状況は、当ファンドが主に投資対象とする「LM・アメリカ高配当株ファンド（毎月分配型）（適格機関投資家専用）」のマザーファンドの状況を表示しています。

※「証券種別構成比率」、「株式等の業種別組入比率」、「<ご参考>アメリカの主な投資資産の利回り（組入銘柄平均）」および「組入上位10銘柄」は、レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社の資料（現地月末前日基準）に基づきニッセイアセットマネジメントが作成しています。

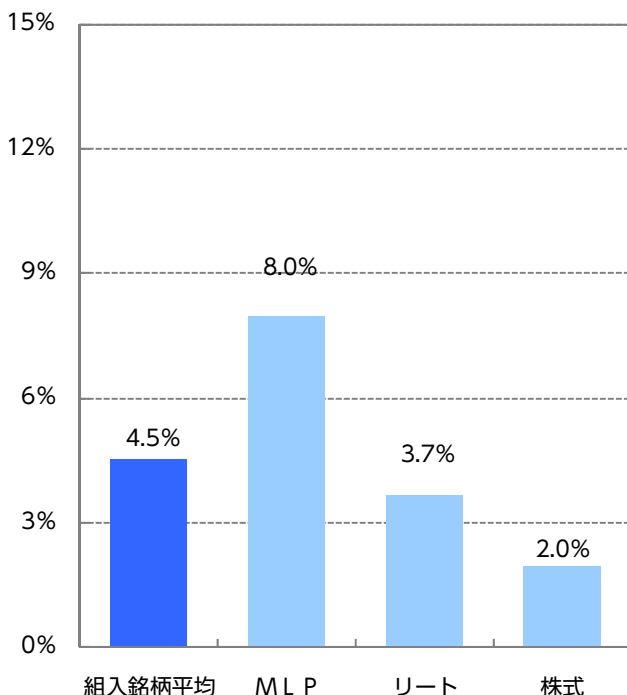
証券種別構成比率



株式等の業種別組入比率



<ご参考>アメリカの主な投資資産の利回り



<ご参考>為替（米ドル・円レート）の推移（直近3年間）



※対顧客電信売相場仲値のデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

※組入銘柄平均：主要投資対象ファンドのマザーファンド組入銘柄の予想配当利回り（加重平均）です。

※MLP：アレリアンMLP指数（予想配当利回り）、
リート：FTSE NAREIT All Equity REITs指数（予想配当利回り）、
株式：S&P500指数（予想配当利回り）については、
ブルームバーグのデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

ニッセイアメリカ高配当株ファンド

マンスリーレポート
2019年7月末現在

組入上位10銘柄 (銘柄数：73、組入銘柄の予想配当利回り(加重平均)：4.5%)

順位	銘柄	配当利回り	比率	種別	業種
				銘柄解説	
1	マイクロソフト	1.3%	5.3%	株式等	情報技術
				米国に本社を置く世界最大級のコンピュータ・ソフトウェア会社。ソフトウェア製品の開発から製造、ライセンス供与、販売、サポートまでを網羅している。	
2	ロッキード・マーチン	2.4%	4.0%	株式等	資本財・サービス
				戦闘機、軍用輸送機、人工衛星、ミサイル等の航空宇宙産業ビジネスを手掛ける企業。	
3	アップル	1.5%	3.3%	株式等	情報技術
				世界をリードする通信機器メーカー。パーソナルコンピュータのMacintosh (Mac)、スマートフォンのiPhone、タブレット型情報端末のiPad等のインターネット・デジタル家電製品を提供。	
4	メルク	2.6%	3.1%	株式等	ヘルスケア
				医薬品メーカー。幅広い医薬品の開発、製造、販売に従事している。主要製品には、高脂血症治療薬、骨粗しょう症治療薬、高血圧治療薬などがある。	
5	ONEOK	5.1%	3.0%	株式等	エネルギー
				天然ガス/天然ガス液(NGL)に関する中流エネルギー事業を展開する大手企業。天然ガスやNGLのパイプライン、処理・貯蔵施設等を有する。	
6	エナジー・トランスファー	8.5%	2.9%	MLP	エネルギー
				米国最大級のMLPの一つで、天然ガス及び石油パイプラインや貯蔵施設等、幅広い中流エネルギー施設を保有・運営する。	
7	ウィリアムズ・カンパニーズ	6.1%	2.8%	株式等	エネルギー
				エネルギーインフラ会社。天然ガス・パイプライン事業における大手。	
8	ジェネシス・エナジー	9.6%	2.8%	MLP	エネルギー
				メキシコ湾地域を中心に石油パイプライン、石油精製、輸送等を手掛ける中流MLP。	
9	ベライゾン・コミュニケーションズ	4.3%	2.5%	株式等	コミュニケーション・サービス
				通信会社。音声・データサービス、ワイヤレスサービス、インターネットサービスなどを手掛ける。	
10	AT&T	6.0%	2.3%	株式等	コミュニケーション・サービス
				通信会社。長距離電話サービス、無線・データ通信、インターネットアクセス、衛星によるテレビ放送などを手掛ける。	

※比率はすべて対組入株式等(MLP、リートを含む)評価額比です。

※配当利回りは、本レポートの作成基準日における投資顧問会社(クリアブリッジ・インベストメンツ・エルエルシー)の調査による予想配当利回りです。したがって、今後変動する場合があります。

※「当月の市況動向」、「ファンドの状況」および「今後の見通し」については、レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社の資料（現地月末前日基準）に基づき、ニッセイアセットマネジメントが合理的と判断した上で作成しています。

当月の市況動向

当月の米国株式市場は上昇しました。

上旬は、前月末に開催された米中首脳会談を受けて貿易摩擦に対する過度の警戒感が後退したことや、米連邦準備制度理事会（FRB）による利下げ期待が根強いことなどを背景に、株価は上昇しました。中旬に入ってから、株価は上昇を続けましたが、市場の一部に広がっていた大幅利下げの期待が後退すると、伸び悩みとなりました。下旬は、4-6月期の米実質国内総生産（GDP）の速報値が予想を上回ったことなどが好感され、株価は底堅い展開となりました。

当ファンドが投資対象としているMLP（マスター・リミテッド・パートナーシップ）の代表的な動きを示すアレリアンMLP指数は、前月末比で下落しました。

上旬は、金融緩和期待等を背景に株式市場全体が上昇する中、MLP市場は上昇しました。中旬は、原油価格が下落したことなどをを受けて、MLP市場は上値の重い展開となりました。下旬に入り、MLP市場は持ち直す場面も見られましたが、米連邦公開市場委員会（FOMC）の開催を控えて投資家に様子見姿勢が広がる中、引き続き上値の重い展開となりました。

同じく投資対象としているリートの代表的な動きを示すMSCI US REIT指数は、前月末比で上昇しました。

上旬は、FRBによる利下げ観測などを背景に株式市場全体が上昇する中、リート市場は堅調となりました。中旬は、株式市場全体が上値の重い展開となる中、リート市場は下落しました。下旬は、FOMCを控えて持ち高調整に伴う買い戻しが見られたことなどから、リート市場は底堅く推移しました。

ファンドの状況

当ファンドは、米国の株式、MLP、リートに投資するファンドです。配当利回りに着目し、相対的に配当利回りの高い銘柄を中心に投資します。また、各銘柄の配当の継続性、配当の成長性、財務の健全性、株価の水準等に注目してポートフォリオを構築します。

（毎月決算型）

当ファンドの基準価額は、保有銘柄の価格が上昇したことなどから、分配金（70円[税引前]）を含めて、前月末比+182円となりました。

（年2回決算型）

当ファンドの基準価額は、保有銘柄の価格が上昇したことなどから、前月末比+379円となりました。

今後の見通し

米国株式市場については、足元では米中貿易協議の行方や世界経済の動向などに引き続き注意が必要です。しかし、米国景気は依然底堅く、今後も米国株式市場を下支えすると予想します。こうした中、レグ・メイソン・アセット・マネジメントは慎重ではあるものの、米国株式全般に対して長期的に強気の見方を維持しています。今後も、バランスシートが健全で、潤沢なキャッシュフローを生み出し、配当利回りの水準が高く、長期間にわたり増配が期待できる優良銘柄への投資を継続する方針です。

MLP市場については、米中間の貿易協議の行方や原油価格の動向などに引き続き注視する必要があるものの、レグ・メイソン・アセット・マネジメントは、MLPのファンダメンタルズ（基礎的条件）の見方に大きな変化はなく、MLP市場は魅力的な投資機会を提供していると考えています。米国における原油や天然ガスなどのエネルギー生産は中長期的に拡大すると予想されており、MLPのキャッシュフローの増加が期待できます。キャッシュフローの増加とともに、配当の成長も期待できることから、MLPは長期的にみて魅力的な投資対象と考えています。MLP市場はバリュエーション（企業の利益・資産など、本来の企業価値と比較して、相対的な株価の割高・割安を判断する指標）面でも長期投資家にとって引き続き魅力的な水準にあるとみています。

リート市場については、足元では米中貿易協議の行方などに引き続き注意が必要ですが、全般に良好な投資環境の継続が見込まれます。FRBが利下げを継続するとの見方が根強いことも、リート市場を下支えすると考えられます。

ファンドの特色

- ①米国株式等に実質的に投資することにより、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざします。
 - ②米国株式等の実質的な運用はレグ・メイソン・グループのクリアブリッジ・インベストメンツ・エルエルシーが行います。
 - ③「毎月決算型」と「年2回決算型」があります。
- ※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して決定します。分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。
- ※将来の分配金の支払いおよび水準について、保証するものではありません。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド（指定投資信託証券を含みます）は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

主な変動要因

株式投資リスク		株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化（倒産に至る場合も含む）等により、価格が下落することがあります。
MLP投資リスク		ファンドが実質的に投資するMLPは、主として天然資源に関連する事業に投資するため、MLPの価格は、当該事業を取巻く環境・市況の変化ならびに金利変動等の影響を受け、また業績悪化（倒産に至る場合も含む）等により、価格が下落することがあります。MLPに関する法制度（税制等）の変更により収益性が低下する場合、MLPの価格が下落することおよび分配金が減少することがあります。
不動産投資信託（リート）投資リスク	保有不動産に関するリスク	リートの価格は、リートが保有する不動産の価値および賃貸料収入の増減等、また不動産市況や景気動向等の影響を受け変動します。リートが保有する不動産の賃貸料や稼働率の低下、また自然災害等によって保有する不動産に損害等が生じた場合、リートの価格が下落することがあります。
	金利変動リスク	リートは、金利が上昇する場合、他の債券の利回り等との比較から売却され、価格が下落することがあります。また、金融機関等から借入れを行うリートは、金利上昇時には金利負担の増加により収益性が悪化し、リートの価格が下落することがあります。
	信用リスク	リートは一般の法人と同様に倒産のリスクがあり、リートの経営や財務状況が悪化した場合、リートの価格が下落することがあります。
	リートおよび不動産等の法制度に関するリスク	リートおよび不動産等に関する法制度（税制・建築規制等）の変更により不動産の価値および収益性が低下する場合、リートの価格が下落することおよび分配金が減少することがあります。
為替変動リスク		原則として対円での為替ヘッジを行わないため、外貨建資産については、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。
流動性リスク		市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

ファンドで分配金が支払われるイメージ

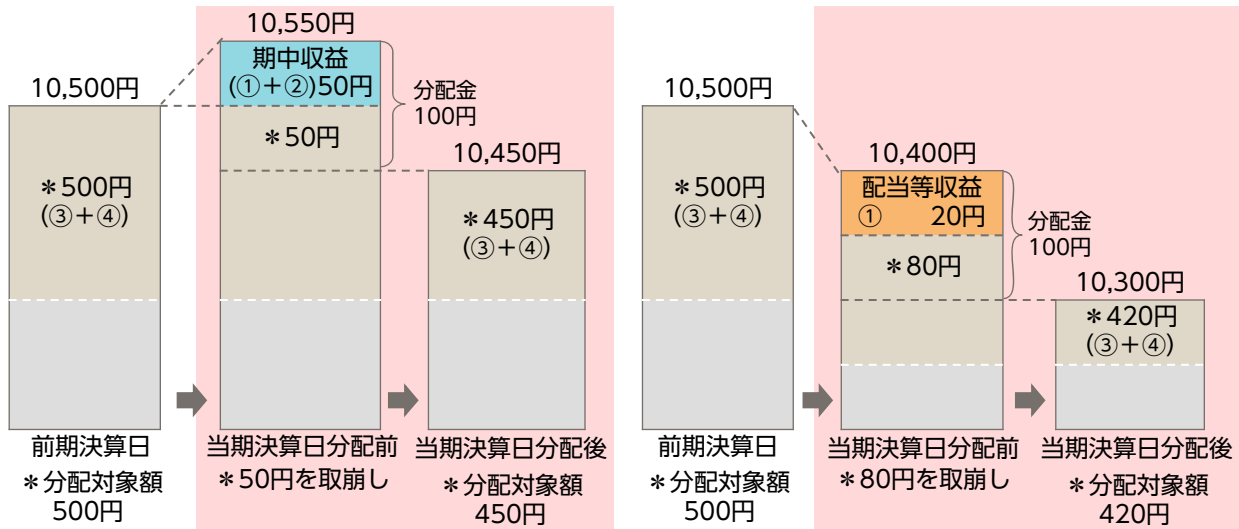


- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合

前期決算日から基準価額が下落した場合



※分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、収益分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

分配準備積立金：期中収益（①および②）のうち、当期の分配金として支払われず信託財産に留保された金額をいい、次期以降の分配金の支払いにあてることができます。

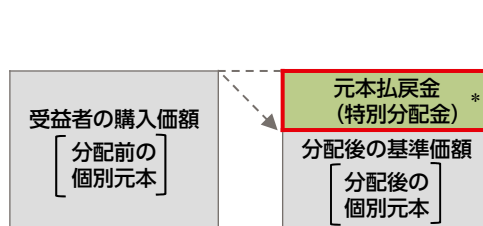
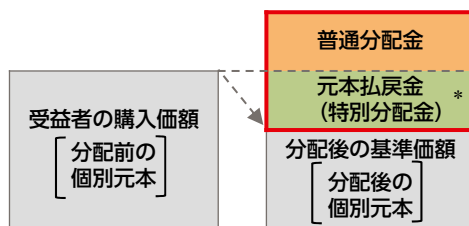
収益調整金：追加型株式投資信託において追加設定が行われることによって、既存の受益者の分配対象額が減らないようにするために設けられた勘定です。

❗ 上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



* 実質的に元本の一部払戻しに相当する元本払戻金（特別分配金）が支払われると、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金（特別分配金）部分は非課税扱いとなります。

普通分配金：個別元本（受益者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の受益者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

※普通分配金に対する課税については、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

手続・手数料等

※基準価額は便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。

お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として7営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。
	申込不可日	申込日または申込日の翌営業日がニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行のいずれかの休業日と同日の場合は、購入・換金・スイッチングの申込みの受け付けを行いません。
決算・分配	決算日	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月決算型：毎月28日 ・年2回決算型：6・12月の各28日 ※該当日が休業日の場合は翌営業日となります。
	収益分配	毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。なお、「毎月決算型」は年12回、「年2回決算型」は年2回の決算となります。
その他	信託期間	2023年2月17日まで（設定日：2013年7月10日）
	繰上償還	<ul style="list-style-type: none"> ・投資対象とする「LM・アメリカ高配当株ファンド（毎月分配型）（適格機関投資家専用）」が存続しないこととなる場合には、各ファンドを繰上償還します。 ・各ファンドにおいて、受益権の口数が10億口を下回っている場合等には、委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることがあります。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」の適用対象です。NISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問合せください。
	スイッチング	「毎月決算型」と「年2回決算型」との間でスイッチング※が可能です。スイッチングの際には、換金時と同様に税金および販売会社が定める購入時手数料・税金がかかります。 ※スイッチングとは、保有しているファンドの換金と同時に乗換えるファンドを購入する取引です。 ●販売会社によっては、どちらか一方のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。

! ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に 3.24% (税抜3.0%) を上限として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。 ※料率は変更となる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金時	信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎日	運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に年率1.2528% (税抜1.16%) をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。					
		投資対象とする 指定投資信託 証券	<table border="1"> <tr> <td>LM・アメリカ高配当株ファンド (毎月分配型) (適格機関投資家専用)</td> <td>年率0.6264% (税抜0.58%)</td> </tr> <tr> <td>ニッセイマネーマーケットマザー ファンド</td> <td>ありません。</td> </tr> </table>	LM・アメリカ高配当株ファンド (毎月分配型) (適格機関投資家専用)	年率0.6264% (税抜0.58%)	ニッセイマネーマーケットマザー ファンド	ありません。
		LM・アメリカ高配当株ファンド (毎月分配型) (適格機関投資家専用)	年率0.6264% (税抜0.58%)				
	ニッセイマネーマーケットマザー ファンド	ありません。					
実質的な負担	ファンドの純資産総額に 年率1.8792% (税抜1.74%) 程度をかけた額となります。						
監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.0108% (税抜0.01%) をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。						
随時	その他の費用・ 手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。また、ファンドの投資対象とするLM・アメリカ高配当株ファンド (毎月分配型) (適格機関投資家専用) において、実質的に投資する投資信託証券には運用報酬等の費用がかかりますが、銘柄等が固定されていないため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。					

- ❗ 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
- ❗ 詳しくは、投資信託説明書 (交付目論見書) をご覧ください。

税金

分配時の普通分配金、換金 (解約) 時および償還時の差益 (譲渡益) に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書 (交付目論見書) をご覧ください。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長 (金商) 第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	ファンドに関するお問合せ先
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	三菱UFJ信託銀行株式会社	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター：0120-762-506 (午前9時～午後5時 土、日、祝祭日は除きます) ホームページ： https://www.nam.co.jp/

ご留意いただきたい事項

- ①投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のもとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- ②当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡する投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- ③投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- ④投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ⑤当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- ⑥当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ⑦当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

取扱販売会社一覧

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合があります。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取扱販売会社名	金融商品取引業者	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
株式会社SBI証券	○		関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
岡三オンライン証券株式会社(※1)	○		関東財務局長(金商)第52号	○	○	○	
岡三証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第53号	○	○		○
カブドットコム証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第61号	○		○	
高木証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第20号	○			
とうほう証券株式会社(※1)	○		東北財務局長(金商)第36号	○			
内藤証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第24号	○			○
松井証券株式会社(※1)	○		関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	
山和証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第190号	○			
楽天証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
株式会社きらぼし銀行		○	関東財務局長(登金)第53号	○		○	
株式会社常陽銀行(※1)		○	関東財務局長(登金)第45号	○		○	
株式会社仙台銀行		○	東北財務局長(登金)第16号	○			
株式会社東邦銀行(※1)		○	東北財務局長(登金)第7号	○			
株式会社富山第一銀行		○	北陸財務局長(登金)第7号	○			
株式会社百十四銀行		○	四国財務局長(登金)第5号	○		○	
株式会社北陸銀行(※2)		○	北陸財務局長(登金)第3号	○		○	

(※1)「毎月決算型」のみのお取扱いとなります。(※2)「年2回決算型」のみのお取扱いとなります。